

「延滞の学習」

8月19日（土）に第6回公開講座を越谷市中央市民会館（埼玉県越谷市）で行いました。今回のテーマは「延滞の学習」です。

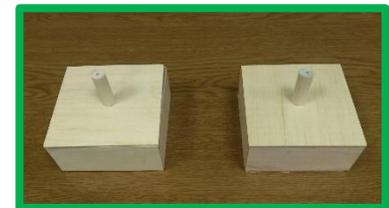
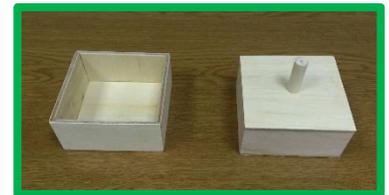
「延滞の学習」には、色々な方法がありますが、この学習では二つの箱の一方におもちゃを入れふたをします。そしてどちらの箱に入っているのかを目で選ぶ方法で学習を行います。

講座の初めに講師の宮城武久（つばき教育研究所理事長）からこの学習の目的についての説明がありました。

「延滞の学習は、記銘・記憶の保持・想起・推測など基礎的な力を育てる学習です。よく見る、見比べる、見分ける等、視覚認知の高次化を図り考える力を育てていきます。特にこの学習では“見てから取る”ことを教えます。見ることを促すために「見て」とことばかけを行ったり、見ない時はポインティングをして視線を誘導したりします。箱は、手の届かない位置に置き、「おもちゃ、どこ」のことばかけで、おもちゃの入っている箱を見たら、「そうだね」と言って箱を近づけておもちゃを取るようにします。このように関わることにより“見てから取る”ことができるようになってきます。

「延滞の学習」が終了すると「形の弁別」「大小の弁別」「同じの概念形成」「文字学習」へと進みます。「延滞の学習」は視覚認知を高めるためにとても大切な学習です。

演習は二人一組で行いました。学習の系統性に沿って、第1段階から第4段階まで行いました。子どもの目を見ながら、ことばかけを行い、教材を呈示することはとても大変でしたが、参加された方皆さん習得することができました。以下参加された方の感想です。



学習の系統性

- | |
|------------------------|
| 第1：箱一つ |
| 第2：ふたのない箱二つ |
| 第3：箱二つ
片方のみ「ふた」 |
| 第4：箱二つ
両方「ふた」 |
| 第5：ふたのある箱二つ
片方の箱の移動 |
| 第6：ふたのある箱二つ
両方の箱の移動 |

今回初めて「延滞の学習」に参加しました。「延滞の学習」は“見るのが苦手な子”にとっても良い学習の方法だと思いました。大人が意識的に関わることで、視覚認知を高めることができることを知りました、
特別支援学校教諭

実際に教材を使っでの研修は大変でしたが、とても勉強になりました。繰り返し練習することで、スモールステップの意味も理解することができました。子ども達にも丁寧に教えていきたいと思いました。
特別支援学校教諭